学級活動

児童会活動

学校行事

別紙様式2

令和3年度生徒指導サポート実践校「特別活動の取組事例」

学校名 府中町立府中北小学校 校長 黒山 寛司 生徒指導主事 梶本 裕樹

取 組 事 例 名 『ピア活動による自己有用感の育成』					
取組における育てたい資質・能力					
人間関係形成		社会参画		自己実現	
コミュニケーション能力	2	積極性	3	自己有用感	1

取組のねらい

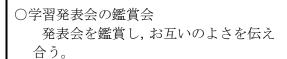
- ・上学年児童は、下学年児童に自分の思いを伝え合いながら関わる活動を通して、自己有用感を育成す る。
- ・下学年児童は、上学年からお世話されたり、上学年をお手本にしたりすることを通して、上学年への あこがれや感謝の気持ちをもち、その思いを伝えることができる。

取組の具体的内容

【全学年共通】

○ピア遠足

ピアのメンバーと一緒にお弁当を食 べたり,上学年が事前に考えておいたゲ ームをしたりする。



○ピア遊び

休憩時間に、上学年が考えたゲームをしたり、ピアグループ に分かれて一緒に活動したりして、関わり合う。

- ○給食, 掃除のサポート活動 (6年) 日々の学校生活の中で、6年生が1年生の給食準備や掃除の 時間のサポートをする。
- ○縄跳び週間における,縄跳び運動(6年) 縄跳びの跳び方の手本を示したり,跳 び方を教えたりする。
- ○修学旅行に向けて(1年) 6年生に向けて、てるてる坊主を作り、応援をする。
- ○学習の発表 (2・4年) 生活科及び総合的な学習の時間で学習したことを、伝え合う。

取組の創意工夫 『キーワード 思いを伝え合う』

- ・上学年は、下学年のことを考えて、 「どうしたら楽しくなるか、喜んでく れるか」を意識して、計画し、活動に 臨む。
- ・下学年は、お世話をしてもらったこ とや、自分達のために考えてくれたこ とに対して,感謝の思いを表現する。



- ・上学年が、下学年の思い(感想や手 紙、発表)を聞き、「サポートしてよ かった」「喜んでもらって嬉しい」と いう思い(自己有用感)を感じさせる とともに、その思いを下学年に伝えら れるようにする。
- ・下学年は、上学年に対しての感謝の 思いを表現させることを通して、思い を伝えることの大切さに気付かせる。

取組の成果と課題

- ・上学年は、ピア活動を通して、下学年との関わり方を学ぶ中で、下学年のことを考えて行動すること ができ、頼りにされていたことにも気付くことができた。アンケートの結果から「喜びを感じた」、「や ってよかった」と回答した児童が90%であり、自己有用感を養うことにつながった。
- ・下学年は、上学年に対して、自分達のために動いてくれていることに気付き、アンケートの結果から 「あこがれの気持ちを抱くことができた」と回答した児童が95%だった。また、上学年の手本を見たり、 優しく教えてもらえたりしたことで,活動の仕方がよく分かり,喜びを感じることもできた。

